

【資料1-2】令和6年度 実施済み事業一覧

実施済み事業名		目的	実施日時	実施内容	対象者	参加者数/ 相談者数	よかった点	課題、検討事項	令和7年度事業に向けて (ご意見を願います)
1	「いきるを支える鎌倉・逗子・葉山」実行委員会 自殺対策講演会	鎌倉保健福祉事務所、鎌倉・逗子・葉山の自殺対策主管課及び社会福祉協議会で構成。 自殺に関する普及啓発を図る一環として講演会を実施。	R6.9.21(土) 14:00～16:00	性教育を糸口として、思春期の子どもたちの自己肯定感を育む土台となる家庭での声かけや接し方、心構えを伝える内容とした。 テーマ:「いまの自分でいい」と思えるためにまわりの大人ができること 講師:高橋 幸子(埼玉医科大学 産婦人科医) 方法:Zoomオンライン	思春期の子どもをもつ保護者、興味関心のある方 鎌倉市・逗子市・葉山町在住の方が中心	55名	・申込み開始から6日で定員上限へ達した。 ・8月から、各市町の足並みを揃え、段階的に周知を開始できた。 ・参加者の大半がターゲットとした思春期の保護者であり、そのニーズに合っていたと思う。	・チラシから想定される内容と、実際の内容が違ったとのアンケート回答があった。 (自己肯定感を育むためのメッセージより、性教育の内容に重きがおかれたため) →委員会として伝えたい内容とチラシの内容は合致しており、講師と打合せていたものの、打合せが5月と早期だったため、相違が生じたか。 ・講師との打合せ時期、チラシの打ち出し方を検討していく。 ・性教育や性暴力のワードはセンシティブであるため、配慮したうえで入れ込めるとよかった。	対象者、テーマを検討中。
2	ゲートキーパー養成講座	「鎌倉市自殺対策計画 いきるを支える鎌倉」の基本施策のうち、「基本施策2 自殺対策を支える人材の育成」を推進する。 (株)アシスタンスと協力して実施。	R6.7.25(木) 10:00～10:50	テーマ:高齢者の自殺に関する基礎知識とその対応について(株式会社アシスタンス協力) 会場:介護福祉カレッジ・アシスタンス その他:ゲートキーパー養成講座終了後、体操教室(株式会社アシスタンス主催)の開催あり。	鎌倉市在住または在勤の方	17名	【アンケート結果から】 やはり「声かけ」の大切さを改めて感じた。 【開催側として】 ・うち7名は民生委員の参加。「支援していた高齢者が自殺した。今日の話を聞けてよかった。」と話す民生委員があり、支援者支援としての意義もあった。 ・アシスタンスホームページでの「ゲートキーパー養成講座」検索数は多く、需要の高い講座であるとわかった。	・高齢者生活支援サポーター養成講座(認知症と抱き合わせ等)や高齢者生活支援サポートセンター職員の研修等、高齢者に携わる人を対象に、高齢者編の内容を実施できるよう検討していく。	・市職員向け講座の開催 ・商工課主催合同就職説明会等で、講座のPR
3	専門職向けゲートキーパー養成講座「こころのケアナース講座」	適切な精神保健医療福祉につなぐため、医療従事者の支援技術向上を図る。	R6.10.22(火) 18:00～19:00	講座内容: ①ゲートキーパー養成講座「自殺対策における基礎知識」 ②こころのケアナース(専門職ゲートキーパー)とは ③傾聴・共感、声掛けのポイントについて 講師:メンタルホスピタルかまくら山名宣院長 渡邊 直樹氏・聖マリアンナ医科大学神経精神科研究員 田口 学氏 方法:Zoomオンライン 周知協力:鎌倉市医師会病院会看護部長会	市内医療従事者(看護師や理学療法士、作業療法士、医師)	7名	【アンケート結果から】 ・事前申し込みがなくZOOM参加とのことで参加しやすかった ・傾聴の仕方や、対応について勉強になった。患者さんとの対応に活かしていきたい。 ・今後も継続してほしい。 ・分かりやすい内容だった。	・受講人数は、5医療機関から7名だった。今後は看護部長会の研修として実施する等の工夫や、周知の面、開催時間などの検討が必要。 ・オンライン開催は電波が悪く接続できない可能性があるため、時間に余裕を持った準備が必要。特に遠隔で講師を依頼する際は留意する。今回は講師が入室しても音声聞こえないトラブルがあり開始2分前に準備が整った。	
4	自殺予防週間普及啓発事業	自殺予防週間(9月10日から16日まで)にあわせて、普及啓発を行う。	R6.9.10(火) ～9.16(水)	市役所本庁舎パネル展示内容: ①「だれでも誰かのサポーター」 ～9月10日から16日は”自殺予防週間です”～ ②「自殺の危機経路図」 ③「自殺者の数は氷山の一角にすぎません」 ④「あなたの『こころ』大丈夫?」 その他、講演会案内、パンフレット配架等 併せて9月10日に鎌倉市LINEで周知	市役所本庁舎来庁者、職員	――	・業者委託し作製したパネルを活用したことで、何の展示なのか、一目で見やすい構成となった。 ・パネルを活用したため、パネル以外の掲示物や配架物の内容を吟味することができた。 ・関係各課へ声をかけ、配架物を提供してもらうことができた。	・展示内容を閲覧した人数や時間、属性が不明であり、対象者の関心度の評価が難しい。 ・配架物の部数をカウントしておらず、どの配架物の需要があったか評価できていない ・期間内に来庁する対象は限定されるため、今後もLINE活用やその他の普及啓発の併用を検討。 ・関係各課の意識醸成するための協力依頼	・感想やコメントなどを付箋に記入し、貼りだす、コメント回収箱の設置等閲覧者の声を拾える工夫を検討。
5	いきるための支援力向上グループ庁内ワーキング部会	本市における自殺対策の課題を明らかにし、施策に反映していくため、対人サービス業務に携わる庁内関連課の職員を構成メンバーとする「庁内ワーキンググループ」を設置。 希死念慮のある方や自死事例に関する情報共有、自殺の背景や支援のあり方の検証、自殺対策に関する研修等を行い、共通理解と支援力の向上を図る (令和6年度:年3回)	第1回定例会R6.10.4(金) 14:30～16:30 ※今後の予定 第2回定例会R6.11.7(木) 第3回定例会R7.1	第1回定例会内容: ①ゲートキーパー養成講座「自殺対策における基礎知識とゲートキーパーの役割」 ②意見交換 ③「相談を受ける際のスキルについて」 講師:ヴィヒャルト千佳こ(公認心理師、臨床心理士)	庁内ワーキンググループ構成員、参加を希望する職員	23名	【アンケート結果から】 ・他課の取組を知ることができた ・多課連携や途切れない支援の重要性に気づいた ・実践に役立つ内容だった 【開催側として】 ・各々の構成員が顔を合わせ、取組を伝え合う場となった。 ・定例会終了後、講師と名刺交換等する構成員が数名いた。 教育部門に精通した外部講師を招いたことで、教育部門と外部講師との顔つなぎの機会にもなった。	・全年代に共通する知識や年代ごとの特徴等を盛り込んでもらった結果、約1時間の講義時間では足りなかった、もっと聞きたかったとの感想があった。時間配分が課題。 ・年間の定例会活動の目的を見据えた講師選定が必要。	
6	いきるを支える相談会	生きづらさや何らかの不安、自殺念慮を抱えている者が必要な支援につながるきっかけとなるよう、相談会を実施。 (令和6年度:年6回)	①R6.5.25(土) ②R6.6.22(土) ③R6.9.28(土) ④R6.10.26(土) 全12:00～14:00 ※今後の予定 ⑤R7.1.25(土) ⑥R7.2.22(土)	生活困窮者支援の一環として生活福祉課が実施している「鎌倉スマイルフードプロジェクト」会場に相談ブースを設置。 原則、匿名で相談を受ける。 継続的な支援が必要な場合は個人情報聴取(相談記録票に記録)し、保健師が引き続きフォローする。 相談担当者:司法書士または臨床宗教師、市保健師	来所者のうち、アンケートの項目「体調に不安がある・気持ちがふさぐことがある」に該当し、相談を希望する方	①2名 ②2名 ③2名 ④4名	・相談者から「話すことで気持ちが整理できた」という声がある。この場が複雑に絡みあった問題をほぐしていく役割をもち、傾聴をメインとした場を提供する意義はあると考える。 ・平日に市役所へ行くことが難しい方にとって、足を運びやすい場となっている。 ・予約不要であるため敷居が低い	・「鎌倉スマイルフードプロジェクト」事業が縮小または終了する可能性がある。 ニーズを抱える方と接点を持ちやすい、他の活動場所を開拓したい。	・何かに困っている方がいく場(女性向け相談会、ひきこもり状態にある方の家族向け相談会、発達障害等に関する市民向け講演会等)での活動。